

## 第 23 回圧力設備規格審議委員会議事録(案)

1. 日時：平成 27 年 4 月 9 日（木）14:00～16:00

2. 場所：HPI 会議室

3. 出席者

委員：石毛委員長（IHI）、大原副委員長（千代田化工）、阿部（NIMS）、磯村（KHK）、  
酒井高行（電中研）、辻（東京電機大）、木原（ベストマテリア）、佐々木（安衛研）  
戒田（住友化学）、水上（石連 / 木村委員代理）、村上（日本原電）、門（日揮）、  
酒井健二(TEC)、中代（IHI 検査計測）、佐藤(発電技検)、安藤(新日鐵住金)、寺田（神戸  
製鋼）、木下(三菱日立パワーシステムズ)、武部(ガス協会)、安達（東芝）、錦織（東京ガス）  
以上 21 名

原案作成者：能登（Office NOTO）

事務局：畑岸、田中（HPI）

4. 配布資料 圧力設備規格審議委員会－23－

- 1 第 22 回圧力設備規格審議委員会 議事録(案)
- 2-1 書面投票結果 HPIS D115 ニッケル及びニッケル合金クラッド鋼加工の技術指針
- 2-2 コメント表
- 2-3 圧力設備規格審議委員会 規格制定基本方針
- 3-1 HPIS C 110 TR 圧力容器の疲労設計ガイドブック 制定案付議書
- 3-2 HPIS C 110 TR 本体
- 3-3 磯村委員からのコメント

5. 議事

石毛委員長の司会のもと、出席委員数（21 名）が委員会成立の定足数（13 名）を満たしていることを確認した後、以下の議事が進められた。

5-1 前回議事録の確認

事務局より資料 23-1 に基づき前回議事録案が読み上げられ、原案のとおり承認された。

5-2 書面投票結果の報告

事務局より、資料 23-2-1,2 に基づき HPIS D115 の書面投票結果について、報告された。また、HPIS D 115 は「技術指針」としているが、「技術指針」は規格制定基本方針の中で規格の体系として規定されていないため、今後の対応を求めるコメントについて、石毛委員長から、今後、「技術指針」については、HPIS TR とすることが提案され、了承された。

また、磯村委員から、HPIS として付議された規格については、法規制への引用及び民間規格としての活用を促進のため、HPIS TR を除いて、全てパブリックコメントを実施するべきとの提案があり、それについても了承された。

5-3 HPIS C 110 TR 制定案審議

事務局より資料 23-3-1 に基づき HPIS C110 TR の制定の付議についての報告の後、疲労設

計分科会の能登主査から資料 23-3-2 に基づき説明があった  
 改正案に出された主なコメントは次のとおりである。

No.	対象箇所	コメント
	表紙	規格名の英語表記に誤りがある Pressre→Pressure
1	表 34, 35	<ul style="list-style-type: none"> <li>表 35 についての説明の記述がない。</li> <li>表 34 と表 35 の数値に違いがある。</li> <li>弾塑性解析の方法が統一されていないのでは。</li> </ul>
2		as weld で全てを網羅しているが、誤解を招かないか。説明が必要ではないか。
3		<p>カラー表示にしなければ、判別できないグラフ、図があるので、カラー印刷を検討してはどうだろうか。</p> <p>(特に、図 4、図 54(2))</p>
4		参照している規格の年号を入れたほうが良いのでは。
5		引用規格が記載されていないが、参考にしてている ASME Div.2 など記載すべきではないか。
6		このガイドラインのみで疲労設計ができるのか。(回答は No だった) 出来ないのであれば、「疲労設計の実際に際しては元になっている ASME Div.2 などの規格を参照すること」との説明を付属書に記載すべきでは。
5	5.2 a)～d)	疲労損傷が発生する箇所→評価点 とした方が、図 4 との対比上わかりやすいのでは。
6	5.4 a)	溶接のままの溶接部 as weld の日本語訳と推測します (コメントは No.2 と同様)
7	6.2.3.3 ステップ 5	effective strain rage → range
8	6.2.4.1 ステップ 11 b)	説明中の式(6.91)は、式(6.99)の間違いではないか。
9	図 25	図中の「隅肉溶接 <sup>1)</sup> 」の 1)の注釈がない。
10	図 30	図中の縦軸 Renge→Range
11	6.3.2.2 a) 1)	説明中の図 32→図 31 ではないか
12	6.4.4 d) 2)	2.3) 強度鋼ボルト→2.3)高強度鋼ボルトではないか
13	6.4.5 c) 1.2)と 2.2)	高強度綱→高強度鋼

本規格に関して、編集上の件も含めて、審議委員会委員からのコメントを平成 27 年 4 月 23 日までに事務局に提出していただくこととなった。

原案作成者が、上記コメント及び審議委員会委員からのコメントについて検討した後、最終版を书面審議にかけることについて承認された。

#### 5-4 平成 27・28 年度 委員委嘱及び委員長選出について

事務局より、現在、各委員への委嘱を進めており、委員が確定次第、委員による委員長選出の書面審議を行う予定であると報告された。

また、本日で、石毛委員長が委員長としては最後の委員会となるため、全員から拍手で感謝の意を表した。

以上